

「日々の理科」(第1372号) 2018 (H30), -4, -9

「春の大学構内」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

新しい学年のスタート時には、春の景色の中で集合写真を撮ることが多い。以前は始業式の翌日に、よく小石川植物園に出かけていたが、サクラが咲く時期が早まって、始業式後に出かけても、すっかり「葉桜」になってしまっている。その点、本校のあるお茶の水女子大学構内は、何種類かのサクラがあって、咲く時期に差があることが嬉しい。ソメイヨシノがすっかり終わったあとでも、別の花が残っている。



今日はよく晴れていたなので、5年生全員で大学構内に出かけた。小学校の脇にある、イチョウ並木も新緑が美しい。思わず深呼吸したくなる並木道だ。



ここは、附属中学校と理学部との間の道。左側にケヤキの大木がある。このケヤキは周囲に邪魔するものが何もなく、ケヤキ本来の自然の形(自形)を保っている。大学構内なので自動車もめったに通らず、小学生が安全に散策できるところがすばらしい。



今日の目的地は大学グラウンド(北グラウンド)ちょっとした斜面があって、春の野草の花がたくさん咲いている。子どもはこういう草つきの傾斜地が大好きだ。さっそく登って、「展望」を楽しんでいた。



珍しく私が写った写真。これは、イネ科の植物の葉を裂いて、草笛を教えているところ。慣れないと難しいが、中には数分で良い音を出せるようになった子どももいた。おだやかな風の中に季節が溢れる、誰の心にも残る、美しい春の一日だった。

